

令和7年度 刈谷市共存・協働のまちづくり推進委員会

第1回 まちづくりん部会 記録

日時：令和7年8月21日（木）午後2時00分～3時30分
場所：刈谷市役所 701会議室

出席者

団体名・役職等	氏名
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛
刈谷市小中学校長会	佐野 恵子
刈谷市自治連合会	大野 裕史
NPO 法人子育て・子育ちNPO スコップ 理事	米山 裕美
文化工房かりや 代表	久保田富士子
一般公募	吉川 真由美
市民活動部長	伊藤 雅人

欠席者

団体名・役職等	氏名
株式会社おたより 代表取締役	塚本 裕章

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバーズ	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバーズ	理事・事務局長	遠山 涼子

1.開会・あいさつ

- 定刻になり、協働推進係長が開会を宣し、その後、資料確認を行った。（略）
- 部会長あいさつの後、議事に移った。
「九州で大雨による被災が心配されるが、いざという時に助け合えるようなつながりが大事であり、そうした考えを持ってまちづくりをすることが本部会の議論のねらいでもある。今日も活発な議論をお願いします」

2.議題

1 まちづくりコーディネーター（以下、まちコ）の活動状況について

■【資料1—1～1—4】を提示し、事務局が説明

（1）まちコの活動報告

- ①令和6年度（直近の部会＝1月以降）の活動実績としては、かりや夢ファンド補助金の採択事業をまちコが取材し、ファンドレポートを作成した（2件、延べ4名派遣）。
- ②令和7年度8月現在までの活動では、4件、延べ17名のまちコを派遣した。「自治連合会勉強会でのヒアリング結果の共有」「自治連合会・公民館連絡協議会合同研修会（アジア・アジアパラ競技大会における地域の関わり）

方)での「テーブルファシリテーション」「市職員向け、共存・協働のまちづくり講座でのグループワーク参加」「ワールド・スマイル・ガーデンツ木の実行委員会のファシリテーション」である。【→a】

・③自主活動として、「8月11日、中高生のためのボランティア入門講座」を行った。【→b】

・④今後の予定としては、愛知教育大学からの依頼「地域連携フォーラム2025のテーブルファシリテーション(11/22)」、市社会福祉協議会からの依頼「一里山福祉委員会座談会のファシリテーション(8/23)」がある。

(2) まちコ交流会

- ・第1回は、5月24日(土)刈谷市民ボランティア活動センターにて、参加者25名で実施。
- ・まちコ有志により運営し、第1部はまちコの活動の変遷や活動紹介、第2部は「みんなで住みたいまちを話し合う」と題してそのために私ができること等を話し合った。(記録あり)
- ・第2回は、12月14日(日)に実施予定。まちコや参加者がそれぞれの活動を報告し合う「活動収穫祭」を兼ねた内容になる予定で、現在検討中。

(3) まちコ養成講座「つなぎの学び舎」

- ・「つなぎの学び舎」は21名の受講者でスタート。小学生や大学生、経験豊富な方まで多彩な顔触れである。7月5日(土)の「まちづくりの想い、聞いて語ろう」、8月2日(土)の「話し合いの『ファシリテーション』とは」は実施済。

(4) まちづくりステップアップ講座

- ・まちコを含むまちづくり活動をしている人が実践に役立つ力を高める講座。
- ・第1回は、6月8日(日)に「共感や協力を得る方法」と題し、仲間や資金を募るために広報・運営について学んだ。参加者13名。
- ・第2回は、令和8年2月21日(土)に「企画会議 会議のデザイン、場づくりの準備」をテーマに実施。ここで企画したものを、来年度春のまちコ交流会に活かす予定。

【a、b=関わった委員からの補足説明】

委員：【a】について：実行委員会は組織として確立してきた。後継者問題など次の段階の困りごとも生じているが仲間内で提案も出てくるし、協賛金集めも検討されている。その話し合いの交通整理を楽しみながらお手伝いさせていただいた。

委員：【b】について：まちコは、市からの依頼で活動することが多く、自主活動をしていきたいという声が出ていた。まちづくりの楽しみを若い人に伝えたいと考え、中高生を中心に「まちづくり部」を作つてはどうかという話が今年4月頃に出た。まずはわかりやすい「ボランティア部」という名称にして、7月頃から中部エリアの学校にPRをした。告知期間が短く、8月11日の会は参加者ゼロ、運営側と協力者の大学生2名のみ参加だった。今後に向けて、「講座」という名称でなく、イベントを行うという形式にして、準備段階から中高生が主体となってイベントを企画・運営する形で検討中。会場は亀城公園コネクドームを想定。

■質問・意見交換

部会長：「つなぎの学び舎」の受講者は21名、バラエティに富んだ受講者に集まっていたが、広報は特別なことをされたのか。

事務局：LINE、X、あいかり、チラシ、つながるねット、かりまるバス内デジタルサイネージ、ホームページ、市民だより、職員向け掲示板で広報をした。担当の感触としてはLINE配信後に申込みが多かった印象がある。

委員：商工業の関係でキャンペーンも行った結果、市の人口よりも多い16万人ほどがLINEを登録している。見ていただけるのは大きい。

部会長：口コミでは、ご近所で連れ立って参加されている方もいた。

事務局：事務局としても小学生が自主的に受講してくれたことに驚いた。

- 委 員：学校でも、総合的な学習で自分たちで考えて企画してという経験をしているので、子どもたちも任されると面白がって結構いろいろやってくれる。機会があれば、のってくる子どもは一定数いる。
- 委 員：中高生が、受験等もあるので一番参加が難しいかもしれない。そこを掘り起こしていくには、ポイント制みたいなもので学校内で反映されていくとよいかもしれない。
- 委 員：「ボランティア認定証」のようなものを出そうかと考えている。中高生に定着したら、リタイア世代にアプローチしたい。自分が身につけたスキルで恩返ししたいと思う人はいると思うので、呼び込みたい。
- 委 員：中学生も、中学校でボランティアを募って様々な場所に派遣する場合には結構参加者が集まっている。テスト週間などの問題はあるが、ある程度の人数が揃う。花火の後も、雁が音中学校の生徒さんたちが清掃をしてくれたり、夏休み中、幼稚園や保育園にボランティアで中学生を派遣している話もある。ただ、土日に部活がある等、時間的制約のある子たちは小学生よりは多く、少し忙しいかもしれない。
- 部会長：中学校に、地域のお祭り・イベント・防災活動に中学生を派遣して下さいとお願いすると、地域学校協働活動推進員の方がコーディネートしてくれる仕組みがある。以前は子ども会など色々な活動で地域の方たちと触れ合う機会があったが、今難しくなってきたので、学校を通じて地域の人たちと触れ合うことは大切である。
- 委 員：小学校では、地域の方たちが学校運営のボランティアに入っていたり教えてきてくださり交流する、中学校では、中学生側が地域にボランティアに出ていくという形での地域とのつながりづくりが進められている。

2 共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討

■【資料 2-1、2-2】を提示し、協議事項について事務局が説明

(資料 2-1 ／共存・協働による地域活動の活性化に向けた検討)

- 令和5年度より、地域活動の活性化をテーマに、「共存・協働によって、各自治会等で取り組まれるとよいこと」「課題が具体化されている地域をモデルにしてその取組を考えること」を部会における協議の方針としている。
- これまで、ホップ段階としてヒアリングやその結果からモデルテーマを協議してきた。今年度は、ステップ段階として、市内の全自治会長が集まる自治連合会勉強会にて事例の共有を行った。事例共有のねらいとしては、事例を聞き、実行してみたいと思った自治会があれば、実際に取り組めるよう後方支援につなげていくことである。主体はあくまでも地域で、やりたいと思う取組をサポートする。
- 6月24日の自治連合会勉強会にて、モデル事例を共有した。まちコ3人が、「A：小山自治会恩田4組の事例（組単位のLINE使用による情報伝達＝電子回覧板）」「B：東刈谷自治会の事例（防災イベント、会計業務・事務員雇用、地域危険箇所等の情報提供・改善活動）」「C：築地自治会の事例（役員体制の再編）」を紹介した。（詳細は資料2-2）
- 上記の内、自治会長の関心が高いのは、「①：LINEでの電子回覧板」「②：次期自治会長の決め方」だった。
- まちコの関わりしろや、他地域に展開する糸口は、①は「LINE活用に向けた環境構築の後方支援（地域の理解や共通イメージの促進等）」、②は、「築地の新体制に関わるフォローアップと、プロセス整理」と考えている。まちコを含む、市民活動に関わる人などが、どのように地域活動に参画したら、地域活動の課題解決に役立ち、活性化するか、ご意見をいただきたい。

■質問・意見交換

【①LINEでの電子回覧板】

- 部会長：地域活動の活性化は、これまで色々議論はあったが、一步地域に踏み込んで進めようとしているのはよいこと。地域活動へのまちコや市民活動団体、企業の関わり方の可能性について、事例でもアイディアでも、皆さんからお聞かせください。

●取りこぼされる人がないように

- 委 員：刈谷市でこうした活動をしていたのを前回の委員会で私自身初めて知ったし、同世代の多くは知らない。勤労者世代・共働き世帯に情報が行きわたると生活が充実するのに、なぜ知らない状況が起こるのかと思った。子

育てをしていて、中学校での地域のイベントのボランティアは情報が伝わっている。年間2回行くと内申書があがるという噂もあり、ボランティアには行くが、それっきりが多い。「もっとまちを知りたい」ということにつながらないケースが多く、どうしたら子どもが行きたくなるのか考えたい。

まちづくりをやりたいんだという人の間でやっていくのか、興味関心がない人たちも巻き込みながらやっていきたいと考えるのか。それによって、仕掛けや仕組み作りは変わる。障がいのある方たちも取りこぼされないように、共存・協働のまちづくりをするときに、LINEの回覧板でその人たちが登録して情報をキャッチすることができるのか、まちの活動に障がいのある方々も参加できるような土壌があるのかといったところが気になる。そうした方もうまく巻き込めるような部会ができたらよいなと思うながら聞いていた。

部会長：とても大事なことだと思う。地域には家にずっといる方、障がいのある方、外国から来た方、高齢者など色々な方がいる。情報を伝える時に、私たちは、どういった方のことを考えているだろうか。

●デジタルと紙媒体を並行しながら

委員：地域で数年前「お宅に19歳になる子はいますか」と呼びかけが回覧でされて、名簿も一緒に流れていて大問題になった。それ以来個人情報や、世帯に関する情報も一切地域では見えなくなっている。

部会長：成人式の関係だったのだろうか。厄年やもち投げもできなくなったりという話もある。

委員：回覧板に今残っているのが、ゲートボールへの参加案内、花の苗を配布するか誰が何鉢欲しいか、の問合せくらい。子どもの年齢やどの家に障害のある子がいるか、あそこのおばあちゃんがどの部屋で寝ているか等はわからず、災害時やその備えに関して困ってしまう。そうした中で、伝えたい人に伝わるにはどうしたらよいか。

委員：地域のイベントを行う時、回覧でリストに参加者情報を書いてもらうのは（回す中で見られるので）嫌という声を聞く。そのため「お宝さがしウォーキング」では申込をQRコードに変えた。1年目は7割ほどがQRからの申込、2年目はもっと増えた。そうしたネット上の情報伝達はさらに必要になる。

委員：市民よりも電子で載せているので、紙で見ない人も多い。一方で、防災における個人情報は、昔は共有されていることが多かったが、今は情報を集めること、扱うこと難しくなってきた。行政としてもどこまで共有してよいのか悩ましい。それとは別に、ボランティアで入っていけるならば望ましいので、教育活動等も含めて支援できる人を掘り起こしていくことは重要だと思う。

部会長：紙の回覧でもらった情報も、大事な情報はスマホで撮っておくこともある。そんな風に、紙の回覧も残していく少しずつオンラインも増やしていく。逆に、防災訓練等を知らない人も多い状況があるため、LINEでも発信してQRコードもつけておく、というのもよい。

委員：恩田4組の事例も、併用する期間を設けていた。組長さんが公式LINEを立ち上げて切り替えていたが、最初の年はLINEがありますよという案内だけ。次の年はLINEと紙とどっちが欲しいですかと尋ねた。こうして今は紙が欲しいという人は少ない状況に変わってきた。それを一度に変えようとすると、なかなか進まない。自分の地域でも、この10月に市民よりも月に1回になるのを機に、紙と電子を併用しつつ、少しずつ切り替えていく予定。世帯数が多くなると、公式LINEは有料になってしまう問題があり、市から補助がもらえるとよい。また、学校の案内が紙で来るが、なかなか電子データでくださいと言いにくい。今はスキャナで読み取り、QRコードをつけて回そうとしている。

委員：組長が代わり、後継者の方が同じようにできない場合はどうなるか。

委員：恩田4組の組長さんは、引き継ぎマニュアルを作った。

事務局：マニュアル作成だけでなく、手順として①スキャンしてPDFのデータにする、②表紙を作る、③Googleドライブにアップする、④LINEで配信する、という手順があるので、それらを全部一人でやらなくとも手分けをしてもよいだろう（=負担が少ないやり方もできる）と、ヒアリング時に話されていた。

委員：分担の際のつなぎにまちが関わることも考えられる。

事務局：組単位くらいのLINE使用ならば、基本的に無料でできる。ただし、地区単位でやると、送信量的に有料になってくる。

部会長：小さい単位でやってみる、そして若い人の協力や、中高生にちょっとお手伝いしてもらえないか考えてみる等それぞれのよいやり方を考えてもうとよい。ただ、よい事例の展開でもいきなりだと拒否反応が起こるかも

しない。じわりじわりと自然に導いていく等、工夫をして、それがうまくいければ、他の地区でも参考にしていくのがよい。

委員：恐らく、学校において電子データで送るのはそれほど難しくはないと思う。私一人が答えたらいけないが、地区が希望されているならば、特に問題はないように思う。学校はペーパーレス化を目指しており、保護者には「きずなネット」にて、タイムリーに送る形もとっている。ただ、家庭によっては手元に持っておきたい方もおり、結果的に紙も用いている状況。子どもたちにもタブレットを使ってどんどんデジタルに強くなつてもらうことを目指しているので、デジタルが使える方が主流になっていくと思う。

【②：次期自治会長の決め方】

●役員選出を合議制に変えた経験・プロセス

部会長：自治会長の決め方は、それぞれの地区で異なると思いますが、いかがですか。

委員：自分の地域は、古い感じも残っているが、自治会長の決め方はエレベーター方式から合議制に変わった。会合時に、組長さんから推薦が何人か出て、私たちが相応しいと思う人に丸をつけるという形になった。

部会長：それは誰が変えると言い出したのか。

委員：ここ2、3年、「こう変えた方がよい」という話は少しずつ出ていて、噂になっていた。みんな困っていたし、決め方をえたことで役員の若返りも起きた。また、女性が組長になってもよいよねという声も始めて、転換期にきている。ただ、地区内で、古い感覚と新しい感覚の差があるのも現状。さらに、高齢者には回観板だけでなく、情報を教えてあってあげないと分かりにくいから、と自分が訪ねて伝えるような場面もある。

部会長：それがずっとうまくいけばよいですね。うちの家族が以前女性の会の役員になった時、なる時には「仕事はこれとこれとこれしかない」と言われて、ではいいですよと言って役員になったら、現実は違っていて騙されたと…。恐らく、今の役員が辞める時に次の方にお願いしなければならないが、全部の仕事を伝えると「大変」と思われ役を引き受けてもらえないくなるので、「これだけよ」と言ったのだと思う。ただ、そうすると人間関係が悪くなりかねない。

また、以前は順番で役員を交代していた。1班から役員が出たら次の年は2班から出るという順番。それがもう難しくなってきた。空き家もあり、施設に入っている人もおり、共働きや土日も働いている方もいる。そのため、方法を変えたいと思う人も多い一方で、地区には重鎮もあり、その人の承諾がないと変えるのが難しいという状況もある。また、若返りをしたら、高齢の方たちは口を出さないことも重要だろう。

委員：婦人会は順番なので役員が回ってくるかもしれないが、今の話を聞いて断りたいと思ってしまった。皆から「大変だよ」「盆踊りの練習があってね」と色々聞こえてくる。でも、地区には、若い世帯と高齢者の世帯とがあり、「任せているばかりでは申し訳ない、私たちの世代も一緒にやります」と、組長や氏子もやりましょうかと話しているが、役員の大変さを目の当たりにすると正直自分が引き受けるのは嫌だなと思ってしまうところもある。嫌だと思わないような仕組みとは、どのようなものだろうか。

●役員をする楽しさを伝える、役員外の力の活用

委員：「楽しいことを見つける」ことだと考える。自治会のイベントをやると楽しいねとか、委員として参加してやり遂げた時の楽しさが伝わると良い。

委員：その声をもっと伝えてほしい。自分が転居してきた当時、地区の防災の役員の方がとても丁寧に声掛けをしてくれた。普通だったら、新しい家を訪ねるのは嫌だと思うが、その方は「LINE教えて」とか言いながら、新しい世代もうまく巻き込んでくれていた。ただ、今はやめられていて、交流はない。その人と交流がなくなつてから防災の情報が分からなくなってしまったこともあり、世代交代の仕方もやはり大事だと思う。そのため「持続可能性のあるつながりネットワーク」と「楽しさ」がキーワードになってくるのだろうと感じた。

部会長：今までの仕組みを変えるのが難しい理由の一つに、役員を1年しかやらない場合は、1年目は昨年度の人が決めた行事・年間計画を行うことになる。1年間やって「ここを変えよう」と思い立っても、自分が役員を降りることになり結局変えることは難しい、という話を「ばらっち。カフェ」で聞いた。それに対する対応策とし

ては、その役員交代等の仕組みを変えるのも一つだが、他に、大変だったら外部に任せる手法もある。自分の地域では子ども会がなくなったが、外部の人が企画をしてくれると、子どもや家族がたくさん来る、子ども会を辞めた人たちも来る。みんな参加したいという気持ちはあるわけなので、それを他の人たちがやってくれれば、「小垣江西高根を明るく元気にする会」のように、地区内のイベント好きなおじいちゃんおばあちゃんの集まりなどが子ども会の代わりに実施していただけるのもよい。

委員：自分の地域では、月に1回、朝7時半から8時くらいに資源回収をするが、その年の委員の他に、以前の委員でずっと続けて出てきてくれる人がいる。そういう方々も大切にしないといけないですね。

●自治会加入への働きかけ、自治会費、防災のアプローチ

委員：自治会の加入を増やす手段としては防災が一番よい。最初、まちづくりを始めた時、「自治会に入ってください」と話をすると、「自治会に入るメリットはなんだ」と聞かれた。今思うと、南海トラフ地震など災害が起きた時に助け合うことができるので自治会に入ってください、ということだと思う。どこに誰が住んでいて、足腰がわるいおばあちゃんがいる等なんとなく情報として伝わってくるから、何かあった時に助けに行ける。自治会に入らず隣近所の付き合いもない方は、その情報が伝わらない。地区の防災訓練に参加しているかどうかでも変わってくる。

事務局：地区で夏祭り・盆踊りをされていると思うが、そちらに「笑顔あふれる地域づくり補助金」を出しており、その条件として、「イベントの時に、本部などに自治会加入ブース等を設けてね」と伝えている。結果、実績報告で「2組入ったよ」等の報告が出てきている。

委員：富士松中学の子たちが防災のイベントに入っていたが、東日本大震災以降、発災時に小中学生の子たちは弱者ではないんだ、自分たちも役に立つんだ、という考えが浸透してきたと思う。子どもにとっても一人前で見てもらえるんだと感じる。お客様として防災訓練に来ているわけではなく、地区に関わりのある一人として、地域でも扱ってもらえていたので、素敵だなと思った。子どもにも、お母さん、お父さん、地域の人たちにも浸透してきているので、「君たちが役に立つんだよ」という捉え方を地区全体がしているんだなと感じた。

委員：小学校高学年、中学生は、地域のことをよく知っており、安否確認の際、非常に力になる。

部会長：自治会費というのを集めていると思うが、それは全部の地区で「自治会費」と呼んでいるか、「協力金」と言つてゐるところもあるのか。

事務局：どういう名目で集められているかを全部市が把握している類のものでないためわからない。私もこの課に来て自治会費の金額は地区によって違う、同地区内でも組によつても違う状況があることを知った。

委員：「区費」「町内会費」「自治会費」と名称がいろいろあるようだ。

委員：自分は、「協力金」というのは聞いたことがない。

部会長：聞いたところでは、自治会費というと会員が払うイメージが強いが、協力金というと、会員でなく協力する人が払うといった柔らかい感じが出ると言つてゐた。

委員：そういう意味では、地域の中にある企業やお店からいただくのが協力金。

部会長：それは確かに協力金ですね。考えられたらよいなと思う協力金は、自治会費=自治会に入っている人が対象だが、それ以外の方にも広く使えるお金があるといいなという点。また、支払う人も裕福な方は1万円、生活の苦しい人は3,000円ぐらいでよいといったことを考えてみるのもよい。自治会に入る・入らないで、掃除やゴミの問題が色々関わるので難しいですね。

委員：自主防災会が避難所運営をする時、自治会に入っていない人は入れてやらない等の議論が出る。彼ら（自治会に入っていない人）も避難訓練に来ない状況もある。

部会長：同時に、自治会側から彼らに情報も流していない。

委員：でも、実際の災害時、受付で「あなたは自治会に入っていますか」とは聞けないだろう。

委員：自治会は自由な立場で加入するか否かを判断する、また、自治会長と地区長は兼ねているが、独立した存在。一方で、ゴミは行政として集めることになっており、自治会に入っていないからゴミを出せないということはない。しかし、実際地域でそうした議論が生まれるイメージはつく。

事務局：他市の事例だが、自治会加入が課題視される中、加入に難色を示す方には「お試し期間」を設け、最初の年は

自治会費を取らずに自治会の情報を提供し、自治会が運営するサービスを利用できるようにして、それで加入するのがよいと思ったら正式に自治会に入る、という工夫をして加入者を増やした例があった。

委 員：刈谷中部地区では、自治会がなく町内会があると聞いたことがある。3つの町内会を覆うように地区委員がいる、とのこと。地区委員のエリアが自治会かなと思ったが、そこは町内会が各自お財布を持っており、自主的な活動が行われている。

刈谷西部地区では、自治会費が用途別に分割されている。自治会費が年間700円、公民会費が1,000円、祭事費が6,000円、消防団の協力金が500円、とバラバラに集め、集まったお金を祭り、公民館、消防団等に渡す。この形だと払う理由が分かりやすいかもしれない。総じて、23地区全部やり方は違うだろう。

部会長：変えていこうとすることは難しいこともあるが、住んでいる多くの方が、変えようと思っている状況がある。地区役員を選ぶとき、なった時、お金の使い方がきっと見えるようにという点では、情報が見える・わかるようにすることが大事になると思われる。活発な議論をありがとうございました。

3.今後の予定

●第2回推進委員会 10月15日（水）15時00分～16時30分

●第2回まちづくりん部会 令和8年1月20日（火）10時00分～11時30分 刈谷市役所 101会議室A

以上